

S=1:100



(A) 土質区分 (砂, 砂質土, 粘土土, 礫質土, 粘土混り土, 岩塊, 玉石)
 (B) フォルム区分 (無筋, 有筋)
 (C) 岩質区分 (軟岩(I), 軟岩(II), 中硬岩, 硬岩(Ⅰ))
 (D) 流用区分 (流用, 捨土)

※ 流用不可… 表土等草木根(有機質)を含む土
 高含水比の土
 クラックの入りやすい土
 (工事着手後現地に地質調査判定委員会を流用の可否を判定する)

流 用 可… 上記以外でせや土の透水係数を満たす土
 $1 \times 10^{-2} \sim 1 \times 10^{-4}$ cm/sec 程度)



(イ) 施工区(掘土、さきや土)	投入	まき出し・敷均し	締固め	盛土量V
b<1.0m	バックホウ(小規模)	人力	振動ローラ(ハンドガイド式)	
1.0m≦b<2.5m	バックホウ0.45m3	人力	振動ローラ3~4t	
2.5m≦b<4.0m	ダンプトラック10t	バックホウ0.28m3	振動ローラ3~4t	
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ選地1t級	振動ローラ11~12t	V<10,000m3
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ選地1t級	振動ローラ11~12t	V≧10,000m3

施工幅b	投入	まき出し	締留め
b<1.0m	バックホウ	人力	振動コンパクト又はタンバ
1.0m≦b<2.5m			振動ローラ3～4t又は振動ローラ（ハンドガイド式）

(ハ) 施工区分 (機械、人力)
(ニ) 土質区分 (砂、砂質土、粘質土、硬質土、粘土混り土、岩塊、玉石)
(ホ) 土質区分 (固土、抱土、さや土)

※下流側に小段がある場合、小段の盛土水平面仕上げと種子吹付は計上する。
また、下流側一般部堤段が人力施工の場合、その水平面仕上げは不要となる。

※下流側に小段がある場合、小段の盛土水平面仕上と種子吹付は計上する。

また、下流側一般部埋戻が人力施工の場合、その水平面仕上げは不要となる。

洪水吐土工算定図

S=1:100

掘 削 工

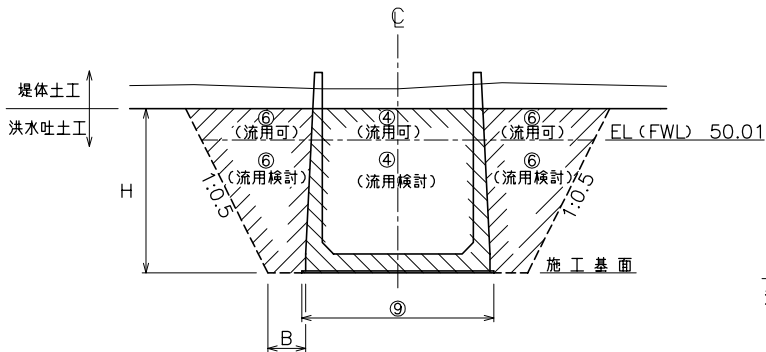
〈 堤体土工影響範囲内 〉

〈 堤体土工影響範囲外 〉

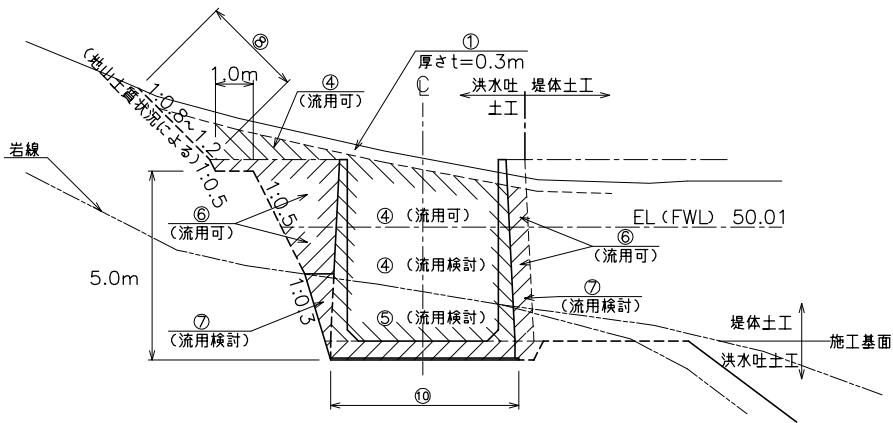
(堤体土工上流側)

(堤体土工下流側)

土質基礎



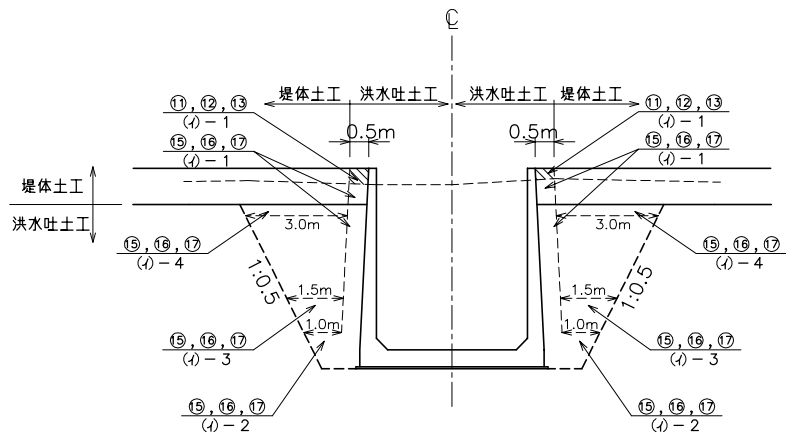
岩 基 礎



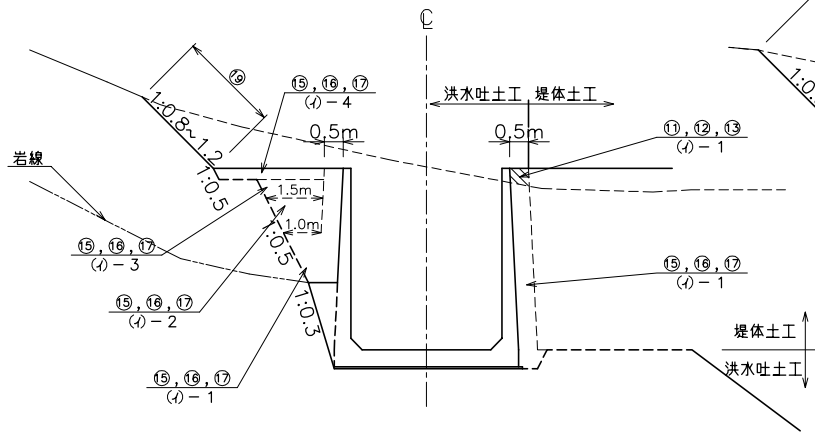
〈 堤体土工影響範囲内 〉

〈 堤体土工影響範囲外 〉

土質基礎



岩 基 礎



盛 土 工

測 点			
	名 称	単位	数 量
	① 表土剥取	(イ)	m ²
	② 石積、石張取除	(イ)	m ²
	③ コンクリート取除	(ロ)	m ²
	④ 掘 削	(イ),(ロ)	m ²
	⑤ 掘 削 (岩)	(ロ)	m ²
	⑥ 床 掘	(イ)	m ²
	⑦ 床 掘 (岩)	(ロ)	m ²
	⑧ 切土法面仕上 (機械)	(イ)	m
	⑨ 人力基面整正	(イ)	m
	⑩ 岩盤整形	(ロ)	m

(イ) 土質区分 (砂,砂質土,粘質土,礫質土,転石混り土,岩塊・玉石)
(ロ) ｺﾝｸﾘｰﾄ区分 (無筋,有筋)
(イ) 岩質区分 (軟岩 (I),軟岩 (II),中硬岩,硬岩 (I))
(ロ) 流用区分 (流用,捨土)

※ 流用不可… 表土等草木根(有機質)を含む土
高含水比の土
クラックの入りやすい土
(工事着工後現地にて地質調査判定委員会で流用の可否を判定する)

流 用 可… 上記以外でさや土の透水係数を満たす土
($1 \times 10^{-2} \sim 1 \times 10^{-4}$ cm/sec 程度)

※ 掘削は施工基面以上において計画上埋戻が発生しないヶ所
床掘は計画上埋戻が発生するヶ所及び施工基面未満の掘削

床掘深 H	余裕幅 B
H<0.5m	B=0.3m
0.5≦H<2.0m	B=0.5m
2.0m≦H	B=1.0m

測 点			
	名 称	単位	数 量
	① 盛土 (鋼 土)	(イ)	m ²
	② 盛土 (抱 土)	(イ)	m ²
	③ 盛土 (さや土)	(イ)	m ²
	④ 盛 土	(ロ),(イ)	m ²
	⑤ 埋戻 (鋼 土)	(イ)	m ²
	⑥ 埋戻 (抱 土)	(イ)	m ²
	⑦ 埋戻 (さや土)	(イ)	m ²
	⑧ 埋 戻	(ロ),(イ)	m ²
	⑨ 種子吹付	(イ)	m

(イ) 施工区分 (築堤用土…鋼土,抱土,さや土)

施工幅b	投入	まき出し	締固め
構造物周辺	バックホウ (小規模)	人力	振動コンパクタ又はタンバ
b<1.0m	バックホウ (小規模)	人力	振動ローラ (ハンドガイド式)
1.0m≦b<2.5m	バックホウ0.45m ³	人力	振動ローラ3~4t
2.5m≦b<4.0m	ダンプトラック10t	バックホウ0.28m ³	振動ローラ3~4t

(ロ) 施工区分 (一般部…埋戻)

施工幅b	投入	まき出し	締固め
b<1.0m	バックホウ (小規模)	人力	振動コンパクタ又はタンバ
1.0m≦b<2.5m	バックホウ0.45m ³	人力	振動ローラ3~4t
2.5m≦b<4.0m	ダンプトラック10t	バックホウ0.28m ³	振動ローラ3~4t

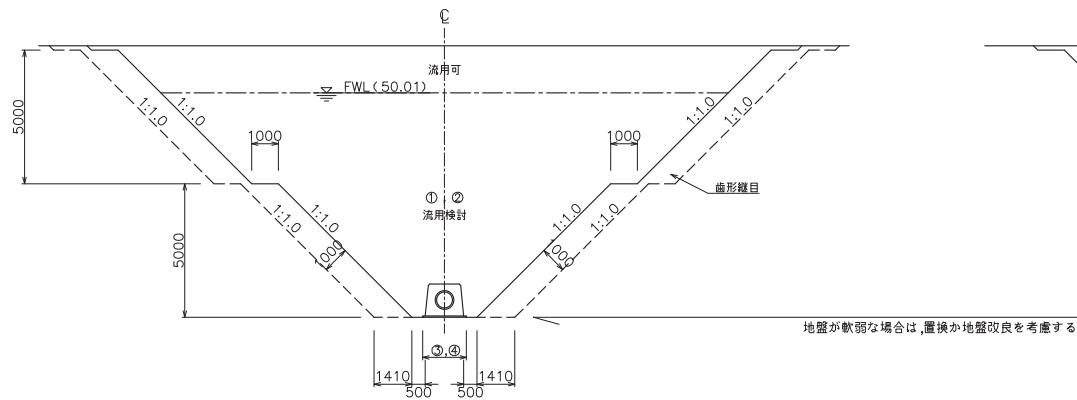
(イ) 土質区分 (砂,砂質土,粘質土,礫質土,転石混り土,岩塊・玉石)

※ まき出し, 締め固め機械は, 現地施工規模・施工性を考慮して決定すること。
※ 盛土は現況地形線より高いヶ所に盛土する場合
埋戻は現況地形線より低いヶ所に埋戻する場合

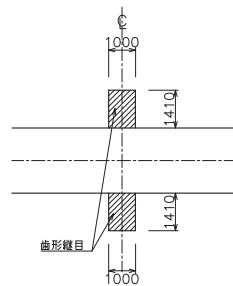
$S = 1:100$

前刃金工法

掘削工

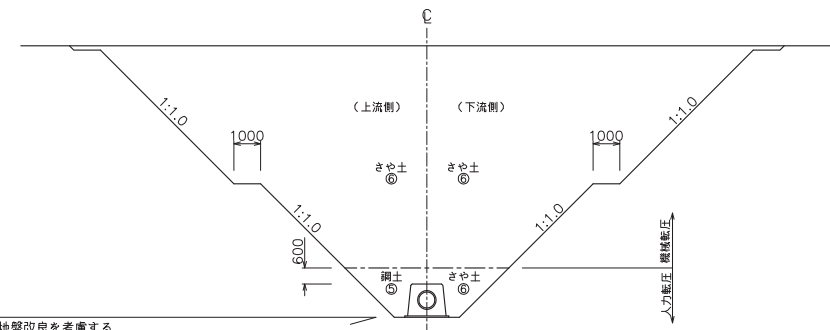


齒形繼目平面図



盛 土 工

※ 下流側堤頂端より 1:1.0 の勾配を境界とする



掘削工

测 点		单 位	数 量
①	掘 削 (4、5)	m ²	
②	掘 削 (岩)	m ²	
③	人力基面整正	m	
④	岩壁整形	m	

(A) 土質区分 (砂, 砂質土, 粘質土, 礫質土, 転石混り土, 岩塊・玉石)
(B) コグリート区分 (無筋, 有筋)
(C) 岩質区分 (軟岩(I), 軟岩(II), 中硬岩, 硬岩(I))
(D) 流用区分 (流用, 捨土)

※ 流用不可… 表土等草木根(有機質)を含む土
高含水比の土
クラックの入りやすい土
(工事着工後現地にて地質調査判定委員会で流用の可否を判定する)

流用可…上記以外でさや土の透水係数を満たす土
($1 \times 10^{-2} \sim 1 \times 10^{-4}$ cm/sec 程度)

盛 土 工

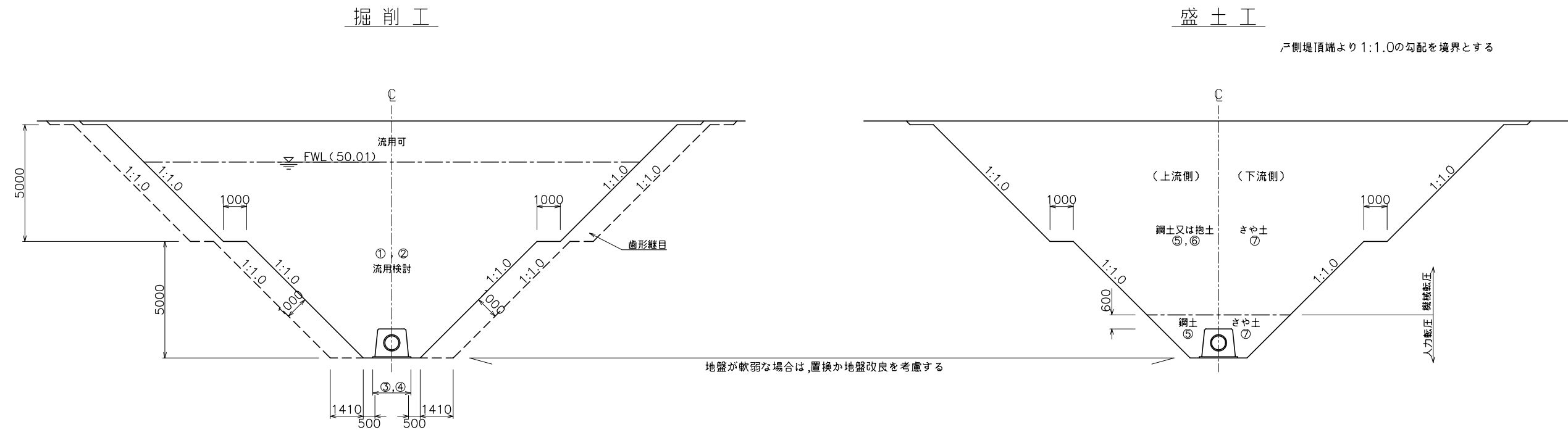
測 点			
名 称			単位
⑤	盛 土 (鋼 土)	(イ)	m ²
⑥	盛 土 (さや土)	(イ)	m ²

(イ) 施工区分(鋼土, さや土)

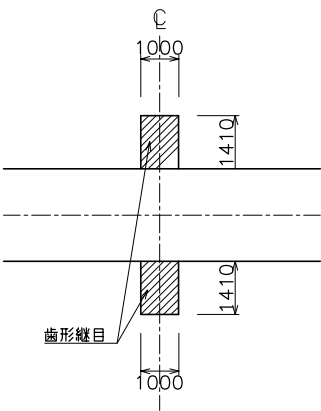
施工幅b	投入	まき出し・敷均し	締固め	盛土量V
構造物周辺	バックホウ（小規模）	人力	振動コンパクタ又はタンバ	
b<1.0m	バックホウ（小規模）	人力	振動ローラ（ハンドガイド式）	
1.0m≦b<2.5m	バックホウ0.45m3	人力	振動ローラ3～4t	
2.5m≦b<4.0m	ダンプトラック10t	バックホウ0.28m3	振動ローラ3～4t	
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ湿地7t級	振動ローラ11～12t	V<10,000m3
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ湿地16t級	振動ローラ11～12t	V≧10,000m3

取水施設土工算定図
S=1:100

抱土工法



歯形継目平面図



掘削工

測点	名称	単位	数量
①	掘削 (イ,ロ)	m ²	
②	掘削 (岩)	m ²	
③	人力基面整正	m	
④	岩盤整形	m	

(イ) 土質区分 (砂,砂質土,粘質土,礫質土,転石混り土,岩塊・玉石)
(ロ) ｺﾝｸﾘｰﾄ区分 (無筋,有筋)
(イ) 岩質区分 (軟岩(Ⅰ),軟岩(Ⅱ),中硬岩,硬岩(Ⅰ))
(ロ) 流用区分 (流用,捨土)

※ 流用不可… 表土等草木根(有機質)を含む土
高含水比の土
クラックの入りやすい土
(工事着工後現地にて地質調査判定委員会で流用の可否を判定する)

流用可… 上記以外でさや土の透水係数を満たす土
($1 \times 10^{-2} \sim 1 \times 10^{-4}$ cm/sec 程度)

盛土工

測点	名称	単位	数量
⑤	盛土 (鋼土) (イ)	m ²	
⑥	盛土 (抱土) (イ)	m ²	
⑦	盛土 (さや土) (イ)	m ²	

(イ) 施工区分 (鋼土,抱土,さや土)

施工幅b	投入	まき出し・敷均し	締固め	盛土量V
構造物周辺	バックホウ (小規模)	人力	振動コンパクト又はタンバ	
b<1.0m	バックホウ (小規模)	人力	振動ローラ (ハンドガイド式)	
1.0m≦b<2.5m	バックホウ0.45m3	人力	振動ローラ3~4t	
2.5m≦b<4.0m	ダンプトラック10t	バックホウ0.28m3	振動ローラ3~4t	
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ湿地7t級	振動ローラ11~12t	V<10,000m3
4.0m≦b	ダンプトラック10t	ブルドーザ湿地16t級	振動ローラ11~12t	V≧10,000m3